

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672100027		
法人名	社会福祉法人 北星会		
事業所名	グループホーム天橋の家		
所在地	京都府宮津市字惣421番地の1		
自己評価作成日	平成27年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	平成27年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に立地しており駅から近く近隣にはスーパーマーケット、喫茶店、医院などがあります。当事業所は2階にあり窓から見える山々の景色や季節を目で楽しむことができます。また特別養護老人ホーム、デイサービスが併設されており、行事を合同で行うこともあり、幅広い方との交流を行っています。地域住民との交流も行っており、近隣の保育所や地元老人会との交流、ボランティアや実習生の受け入れを行っています。また大正琴、編み物、お茶など趣味の時間も大切にしています。食事は会議や行事の時を除いては基本的には3食すべて事業所内にて入居者の方と職員で協力しながら調理しています。その他、掃除や洗濯等も無理のない範囲でできる限り入居者の方が自分で行なえるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都丹後鉄道宮津駅の裏、住宅街にあり、敷地内に特養やデイサービス等を併設している。グループホームは2階にあり、利用者には馴染みの四季の風景が毎日目の前にひろがっている。開設以来の管理者と主任は①家族や地域と連携した運営、②利用者の暮らしが自らの力を生かして続けられること、の2点を中心に進めてきている。そのため地域住民に認知症の研修実施、利用者作成の雑巾や紅白の球を小学校や保育所に進呈等、地域貢献に力をいれている。利用者の暮らしは、年末は門松やおせち料理をつくる、よもぎ団子や干し大根、梅干し等季節ごとの習慣を続ける、畑や花壇での野菜の収穫、姪のマフラーを編む、百人一首やトランプで遊ぶ、毎週のドライブ等、この地で生まれ育った利用者にとって山や海の豊かな自然とともに暮らしてきたこれまでの暮らしを、同じくこの地の出身である職員に支えられている。職員も利用者との暮らしを楽しみながら支援している。まさに宮津のこの地のグループホームの姿である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				

	バカな男、女	4. ほとんどいない
--	--------	------------

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針について職員間で話し合い、見直しを行なった。また事務所入り口、事務所内等に掲示し共有している。	法人の理念を踏まえて、職員が話し合い、「第2のわが家、地域連携、思いやり(要約)」という理念を定め、ホーム内に掲示し、パンフレットに掲載している。職員はカードに記載し、常に携行し、理念の実践として、利用者や家族の立場に立って考え、対応することを第一にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している特養等の施設全体で自治会に入会している。地域とは近隣の保育所との交流、ボランティア、施設実習、職場体験の受け入れ、地元老人会との交流など交流の機会を設けている。	利用者はふだん近くを散歩して池やお地蔵さんに行ったり、スーパーで買物し、近所の人と交流している。近くの友人や保育所の子どもたちが遊びに来てくれる。ボランティアの民謡やギター、太鼓、三味線等の演奏を楽しみにしている。利用者が雑巾や玉入れの紅白の玉を縫って近くの小学校と保育所に進呈し、運動会で利用者も競技に参加している。中学生の職場体験実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前「市民公開講座」に参加し、市民の方々に認知症について話をしたことがある。今年は地元の老人会の方を対象に認知症の理解、事業所の概要等を伝える機会を計画して行ければと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、市職員、介護相談員、入居者の家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。状況報告、情報交換しサービスの向上に活かしている。	家族、自治会長、民生児童委員、介護相談員、市介護福祉課が委員となり、隔月に開催、記録を残している。委員は利用者と共にホールでティタイムを楽しむ等、ホームの運営に理解を深め、土砂災害の心配、緊急時体制等について意見交換している。自治会長の提案で老人会で認知症の研修をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、主任が中心となり、直接、市役所に出向いたり、電話で相談する等している。	市とは常に報告、相談をし、連携を保っている。市の介護相談員を受け入れている。市制60周年記念行事の市民公開講座で管理者は講師を務めている。市のSOSネットワークに協力し、訓練に参加している。京都府老人福祉施設協議会に所属し、情報交換や研修に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スロープ出入口にチャームを設置し日中は鍵をかけない取り組みをしている。その他、言葉使いも抑制にならないよう心掛けている。また、外部研修会に参加し研修報告会を行なった。	「身体拘束をしないケア」について契約書に明記し、実施している。マニュアルを作成し、外部研修も含め職員に研修を毎年実施している。事例はない。グループホームの玄関ドアは施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての資料を職員間で回覧し、周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を職員間で回覧し、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明して理解を得ている（特に利用料金、退居に関して）。また面会時や家族参加の行事の際に質問、疑問に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を取り入れる体制や入居者に嗜好調査を行なっている。家族には年1回、満足度調査を行い、希望等を聞く機会を設けている。また調査結果は集計し家族に報告している。	家族は毎月あるいは隔月に面会に来ており、利用者の受診に同行している。利用者の写真を多く掲載し、行事の様子を書いた広報誌『天橋の家たより』を家族の来訪時に配布している。フェイスブックでも情報を提供している。年2回食事会を開催し、多くの家族が参加しており、交流している。利用者の嗜好調査と家族の満足度調査を毎年実施し、集計結果を家族に返している。家族は来訪時等に意見を言っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に主任を通して年に2回行う職員の個人面接の中で聞く機会を設けており、日常的には毎月開催される定例の会議で出された意見を参考にしている。	毎月職員会議を開催し、業務の話し合い、ケース検討、内部研修及び伝達研修を実施している。欠席の職員は意見を提出している。「食材はなるべく地元産を使いたい」「エアコンの掃除をいつするのか」等、職員は会議で活発に意見交換している。外部研修は情報を流し、職員の受講希望を支援している。職員は毎年自身の目標を申告し、上司との面接で達成に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任を通して年に2回行う職員の個人面接の中で聞く機会を設けており、職員からの申し出があれば管理者と個別で話す機会を設けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての常勤職員は認知症介護実践者研修を修了し、毎年個人別研修希望調書を取り、職員の希望に添える様に外部研修受講も勧めている。今年度は1名が認知症介護リーダー職員研修修了。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府老人福祉施設協議会に加盟し、社会福祉法人が運営するグループホーム職員研修の受講や近隣のグループホームへの相互の見学を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に話を聞くにとどまっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に話を聞くにとどまっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より話を聞き、希望、必要に応じたサービスを提供している。理容、美容の希望があれば、外部より整髪に来て頂くなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り入居者の方と共に行動し、良い関係を築いている。料理、園芸等入居者の方から職員が教えて頂く事もあり、その様な機会も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来る限り面会に来て頂いたり電話で話をして頂いたりしている。また、受診についても可能な限り家族に付き添いをお願いしており、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物に出かけた際、以前住んでいた自宅を見にいたり、生まれ育った所や懐かしい場所へドライブに出掛ける等、馴染みの場所へ行く機会を設けている。	由良、野田川、伊根等、利用者が生まれた地域を利用者とドライブしていると、あの山で仕事をしていてたいへんだったとか、ここでよく遊んだ等、懐かしそうに話が弾む。馴染みの散髪屋さんができて久しぶりの再会もある。年賀状の返事を書く支援をしている。教師をしていた利用者の教え子が訪ねてきてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等、各入居者が分担し、共に支えながら生活している。日中はホール(共有スペース)で過ごされることが多いが数名で居室へ行き、過ごされることもあり、そのような時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が決定した後も本人、家族に対して今後についての相談や支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、ミーティングで本人を中心に考え、希望、意向の把握に努めている。	利用者や家族、利用していた居宅のケアマネジャー等から利用者の情報を聴取し、アセスメントしている。「何かすることがあったらします」「自分ができることはしたい」等、利用者の思いを記録している。宮津、由良等の出身地、生家は農家、夫は散髪屋、子どもは2人、趣味は歌、編み物等、利用者の生活歴を聴取し、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族、在宅ケアマネジャー、以前の利用施設等から情報を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	身体状況については毎朝のバイタル測定で 把握し1日の過ごし方等はケア記録、ミー ティングで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人や家族からの意向を基に介護計画書を作 成している。カンファレンス、ミーティング で職員より出た意見を踏まえ計画書は3ヶ月 毎にモニタリングを行い、見直しの必要がな ければ6ヶ月毎に見直しを行っている。	介護計画はケアマネジャーが家族や職員の意見 を聞き、作成している。ほとんどの利用者が「でき る力を生かして生活する」という介護計画になっ ている。介護記録は時間に添って利用者の様子 を書いている。モニタリングは「実施状況」「目標達 成度」「利用者・家族の満足度」「評価」の項目に ついて点検している。	利用者の介護計画は、利用者の生きがい となるような項目も入れ、一人ひとりの利 用者ごとにその人らしい暮らしができるよ うな介護計画にすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに個別に記録して情報を共有して いる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて職員間で相談し対応 している。医療面に関しては併設施設の看 護職員の協力やかかりつけ医に往診してい ただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入を行い、歌、手作り雑 巾、紅白玉の作製等、個々に合った支援を 行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてからも基本的には在宅時のかかりつ け医を継続していただいている。必要に応じて日 頃の様子を伝える為、「通院時情報提供シート」 を利用しかかりつけ医と連携を取っている。また 毎月定期的に往診に来ていただいている入居者 の方もいる。	利用者の従来からのかかりつけ医を大事にし、定 期受診は家族が同行している。ホームで把握して いる利用者の様子や情報を文書にして医師に提 供している。かかりつけ医に往診にきてもらって いる利用者もいる。認知症をはじめ他科の受診は北 部医療センターを利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	併設施設の看護職員と連携を取っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き様子を把握している。また退院に向けてできる限り、家族にも出席してもらいカンファレンスを行い、行えない場合には情報提供をお願いし状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員体制、設備面等で看取りはできないことを契約時に説明している。医療行為が必要になった場合は検討会議を持ち、状況を確認した上で家族と相談しながら他施設への転居に向けて話を進めている。	利用者が重度化した場合や終末期に関して、方針を書いた内部資料があり、それをもとに契約時に利用者と家族に説明し、意向を聞いている。最期までいられないのなら、とほとんどの利用者・家族は特養等の申し込みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等にはマニュアルに従い対応している。また職員は普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と共に年2回、昼夜を想定しての火災避難訓練、水害避難訓練を行っている。その他、災害時用の非常食を常備している。	消防署の協力を待たず、年2回の避難訓練をしている。地域の人の協力は得られていないものの、京都府の職員アパートが隣接しており、災害時の要員としている。火災対応と水害対応の訓練はしているものの地震対応、夜間帯の訓練はしていない。食料の備蓄を用意している。ハザードマップはスタッフ室に掲示し、職員は危険箇所を認識している。地域の福祉避難所として市と協定している。	避難訓練は地震、夜間を含めて年数回実施し、職員の身につくようにすること、備蓄は食料だけでなく、様々なものを準備すること、以上の2点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自室のドアには鍵が付いている。また自室のドアの一部がガラスになっており、希望される方には中が見えないよう配慮している。その他、声掛けもプライバシーを損ねないような声掛けをしている。	さまざまな経験をし、長い人生を生きてきた利用者の尊厳を守り、ていねいな言葉遣いに対応を心掛けている。とくにトイレ誘導の際は声の大きさに注意し、トイレの外での見守りにも配慮している。居室のドアのすりガラスがいやだという利用者には工夫して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から外出の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で可能な限り自己決定して頂く場面を作り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	関わり日を設けて話を聞く機会、共に過ごす機会を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの行きつけの美容院でのカットや訪問理美容でカットを行なっている。また、個人で口紅、ファンデーション、化粧水、クリーム、自分好みのシャンプー等を持ち、各々身だしなみができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には誕生者の希望を聞き、外食を行ったり、好物を昼食のメニューにしている。また、嗜好調査を行い把握に努めている。食事準備、片付けは入居者の方と共に行っている。ホットプレートを使用して皆さんでお好み焼き等を作ることもある。	新聞のチラシや冷蔵庫の中を見て毎日献立を立て、食材の買物に行く。栄養士の資格がある職員がカロリー値や栄養バランスに配慮している。地元産で旬の食材にこだわっている。調理や盛り付け、後片付け等、利用者と共におこなっている。職員も共に食卓を囲み、会話しながら食事を楽しんでいる。誕生日にはうどん、魚の煮つけ、やき豆腐等、利用者の希望に添った献立になる。畑や花壇で収穫した野菜も食卓に上る。認知症による食事に課題のある人に適切な支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員のアドバイスや料理本を参考にして栄養バランス等を考えて献立を作成している。その他、入居者の方の体調に合わせて代替食にて対応したり、水分補給については声掛けを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きと番茶でうがいを行っている。また必要に応じて就寝時には義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンやサインを見逃さないようにし引き継ぎ等で情報を共有している。また必要に応じて、かかりつけ医にも状況を報告している。	排泄の自立ができて利用利用者もあり、その他の人には排泄チェック表をつけ、一人ひとりのパターンを把握し、声掛け誘導している。排便についても服薬に頼らず、トイレでの自然排便を目指して、水分、寒天、バナナ、ヨーグルト等で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御飯に寒天を入れたり、毎日ヤクルトを摂取したり朝には牛乳、バナナ、ヨーグルトを摂取している。また食物繊維の多いものの摂取を心がけている。その他、体操や室内ウォーキングを行い、適度に体を動かす機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴していただいている。順番は出来る限り希望を聞き、拒否のある方へは様子を見ながら声掛けする。また希望により同性介助を行なっている。	浴室はかなり広めで明るい。毎日夕方4時から6時を入浴の時間とし、週2回を支援している。入る順番や湯温、入っている時間、同性介助等、利用者の希望に添っている。入浴拒否の人には種々工夫して対応している。職員との対話の時間として利用者は入浴を楽しんでいる。	食事と共に入浴は毎日の暮らしのなかで利用者にとっての大きな楽しみのひとつである。1日おきに入浴できるように支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人の希望で自室、ホールの畳の間で行っている。入居者の方からは「ちょっと横になってくるわ」と言う言葉も聞かれその時の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬資料は個別にファイルに綴じて保管し必要に応じて確認している。服薬の準備については職員2名で準備し他の職員1名が確認する3名体制で行っている。下剤についてはかかりつけ医了解を得て、様子をみながら調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日、クリスマス会&忘年会や季節に合った行事、活動を行い支援している。その他、貼り絵を作成して地域の文化祭に出展し、展示された作品を皆さんで見に行った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物に職員と一緒に出かけている。また、春、秋には遠足に行き四季を楽しむ機会を設けている。また週に一度、関わり日を設けて散歩、ドライブ等の外出も行っている。その他、買物の途中で自宅付近や本人の馴染みの場所に寄り、個別の希望に添うようにしている。	ふだんは近くへ散歩に出かけている。「関わり日」を設定し、外出したい利用者等と職員が3、4人で様々なところへドライブしている。由良、獅子崎、野田川のひまわり畑、成相寺展望台、宮津ロイヤルホテル等、付近の景勝地へ出かけ、展望を楽しんでいる。またみんなで出かける春と秋の遠足はお弁当をもって夜久野町や伊根町に行っている。由良神社での初詣、加悦奥SL広場での花見、近くの公園での紅葉狩り等、季節の外出もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人の希望に合わせて金額は少ないが自分で管理して日用品等を購入していただいている入居者の方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話していただいたり家族から掛けていただいている。また、家族や馴染みの方から年賀状が届く入居者の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは大きな窓があり明るくゆったりと過ごせるスペースとなっている。所々にソファがありゆっくり座ったり畳の間で横になったりするスペースがある。また、季節を感じれるように花や季節の物(雛人形・クリスマスツリーなど)、ちぎり絵を飾っている。	玄関の下駄箱の上に小さな人形、ポス等を飾っている。居間兼食堂はゆったりと広く、大きな窓から四季の風景が見える。食卓の他にソファがいくつも置かれ、利用者の居場所が自由である。畳コーナーには床の間と押入れがあり、コタツが設置されている。居室前の廊下には天窓があり、明るい陽射しが入る。利用者制作の季節のちぎり絵を廊下の壁に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下にソファ、こたつ、食事用の椅子があり個々に好きなところに座りゆっくり過ごしていただいている。居室で数名集まり談笑されることもある為、必要に応じて椅子等を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し以前、自宅で使用していたものを持って来て頂く様に工夫している。家族の写真やタンス、テレビ等各々思い思いの品を持って来ていただいている。居室の出入口にはネームプレートを設置し飾り等も工夫している。	居室は洋間で、ベッド、箆笥、枕頭台等を備え、花の鉢を天井から吊るしている。入口には利用者が自分で書いたネームプレートに小さなマスコットをつけ、一枝の花を挿して、掛けている。利用者は自分の書やお気に入りのカレンダーを壁に掛け、箆笥の上には小さな飾りや写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、段差もほとんどない為、老人車の方等も安心して生活していただける。またコールや手すり等も設置して安全面も配慮している。トイレには案内板を設置し入居者の方に分かるようにしている。		